

平成21年10月30日

各位

上場会社名 日精樹脂工業株式会社
 代表取締役社長 依田 穂積
 (コード番号 6293)
 問合せ先責任者 専務取締役経営本部長 宮島 和雄
 (TEL 0268-82-3000)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,000	△250	△130	△180	△8.59
今回発表予想(B)	7,470	△1,280	△1,310	△1,320	△63.01
増減額(B-A)	△530	△1,030	△1,180	△1,140	
増減率(%)	△6.6	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	15,952	△765	△547	△572	△26.99

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	18,000	150	300	170	8.11
今回発表予想(B)	18,000	△1,760	△1,720	△1,740	△83.05
増減額(B-A)	0	△1,910	△2,020	△1,910	
増減率(%)	0.0	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	27,048	△2,219	△2,355	△3,375	△160.14

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,300	△275	△170	△200	△9.55
今回発表予想(B)	6,590	△1,150	△1,200	△1,220	△58.23
増減額(B-A)	△710	△875	△1,030	△1,020	
増減率(%)	△9.7	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	15,151	△719	△487	△504	△23.82

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	16,400	80	220	140	6.68
今回発表予想(B)	16,400	△1,510	△1,500	△1,530	△73.03
増減額(B-A)	0	△1,590	△1,720	△1,670	
増減率(%)	0.0	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	24,374	△2,142	△2,255	△3,261	△154.74

修正の理由

1. 連結業績予想について

(1) 中間期

当社グループの主力商品である射出成形機の需要が、国内及び北米市場において依然低調であり、売上高につきましては当初予想をやや下回る見通しであります。

一方、前期末(平成21年3月期)に実施した人員削減等による固定費の圧縮、および在庫機の政策的販売を実施したことによる棚卸資産の圧縮効果等により営業キャッシュ・フローは大幅な改善が見込まれるものの、生産量の減少に伴う工場操業度の低下、また需要の集中する中国・東アジア地域での過当競争による販売価格の大幅な下落により利益水準が低下し、各利益につき当初想定額を下回る見通しであります。

(2)通期

売上高につきましては、回復が著しいアジア市場への販売強化等により当初予想値の達成は可能であると見込んでおります。

利益面につきましては、当中間期において上記在庫販売が終息し、生産量の増大に伴う工場操業度のアップ等により利益水準は順次改善していく見通しであります。一方、販売価格の下落が想定以上に進むものと見込まれることから、通期におきましても各利益をそれぞれ下方に修正するものであります。

2. 個別業績予想について

連結業績予想の修正理由と同様であります。

注. 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後、様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上